

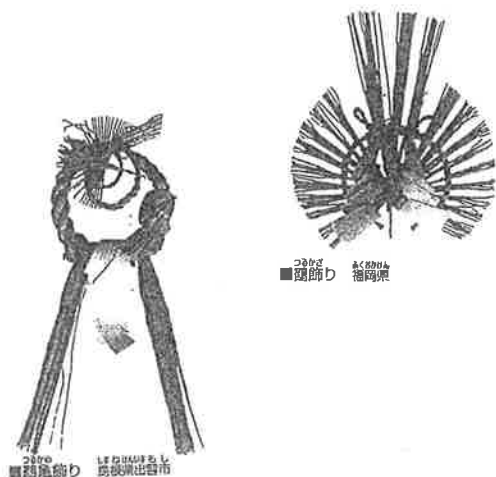
お正月の縁起物

<正月飾り>

●門松

神様が降りて来られる時の目印として、玄関や門外に立てられる。まっすぐに伸びた竹や、冬になっても葉を落とさない松を使うことにより縁起を担いでいる。五穀豊穡を願って、福井県などでは米俵に松を立てて飾る正月飾りがある。また、門松を立てる風習がない地域もあり、島根県仁多郡では「飾り松」と言って、床の神様や大黒様の棚に松を飾っている。

●しめ縄 飾った場所の内と外を区別するため、主に玄関に飾り家の中に災いが入り込むのを防ぐといわれている。地方によって形が異なり、島根県出雲市には「鶴亀飾り」と言われる中央に亀の形が編み込まれたしめ縄が飾られている。多くの地域でしめ縄は正月が過ぎると外しますが、三重県伊勢市では1年間しめ縄を飾り、新年に新しいものに取替えるという習慣がある。

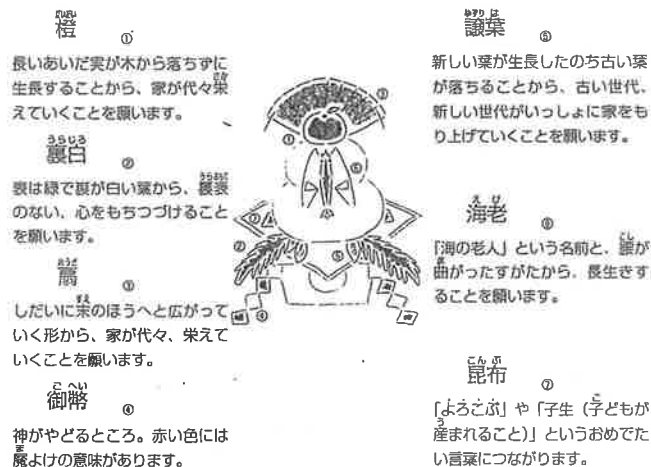


つばき
■ 門松
A 鶴亀
徳島県



■ 門松
B 伊勢市
三重県

●鏡餅飾り 古くからお餅がお祭りなどの特別な日の食べ物とされていたためにお正月にも食べられる。鏡餅の上に乗せる橙は、長い間実が木から落ちないことから、家が代々栄えていくことを願っている。また裏白と呼ばれる葉は、表が緑で裏が白いことから裏表のない心を持ち続けることを表している。



<おせち料理>

●三つ肴(おせち料理の代表的な三つの料理)

- ・黒豆…健康にまめに暮らせるようにという意味がある
 - ・数の子…子宝に恵まれますようにとの願いが込められている
 - ・ごまめ…片口ワシの幼魚を干したもので、「五万米」と書かれ豊作祈っている。
- ※関西では「ごまめ」の代わりに「たたきごぼう」が三つ肴の一つになっており、根をはって長生きするようにという意味が込められています。

【参考資料】

石田繁美「家族で楽しむ日本の行事ときたり」、ポプラ社、2005、p.10～17